

公表

## 事業所における自己評価総括表 放デイ

○事業所名	みらいずジュニア美郷		
○保護者評価実施期間	2026年1月19日		～ 2026年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	2026年1月19日		～ 2026年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	MTGを必ず行うことで一人一人の成長を把握し、現状の理解と今後の支援策について対応できている。 共有の時間を作ることでスタッフが何を目標に現場に入るのかが確認できている。	・MTGは朝と午後に必ず行っている。支援する際に何を目的に現場に入るのか確認している。また試して見たが改善したほうが良い支援や、このまま続けていきたい支援についても必ず振り返りをしている。 ・職員室に共有ノートを置き、休んでいたスタッフへも共有できるようにしている。	・送迎等で時間がない時はMTGが疎かになってしまうことがあったので必ず時間を取る。 ・個別訓練での進行状況や課題について確認する機会を作る。 ・子どもにとって何が苦手か何が得意か個人の判断にならないよう、MTGの徹底と個別対応のお子さんのマニュアル作成。 ・教室内に共有ノートを置き、子供の状況などを書くノートを置くことで休んでいたスタッフへの共有も忘れずにしていく。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫して支援している。	特性に合ったプログラムの設定と、できるようになっても、そのまま続けていくものと新しく内容を変えるものを見分けをし、セラピストと協力しながらマニュアルを作るようにしている。	・感覚統合、体あそび、個別訓練の模擬の実施を行い、スタッフ全員で同じ支援を行う。 ・成長に合わせて支援内容を変えるようMTGをおこなう。
3	振り返りを徹底し、その日行った支援で気づいた点や改善点を話しあう機会を作っている。	自分で気づくことを意識し、他のスタッフの支援を真似することや自身の成功体験を伝えることを徹底している。	・相談の場という意識でできなかったことを失敗ととらえない環境を作ることで、言いやすい雰囲気づくりと不安なく支援できる現場づくりを行う。 ・普段からコミュニケーションを取れるよう昼食時などにみんなで食事をする機会を設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ベアトレが実施できず、保護者の意識とスタッフの意識や考えがずれることがある。	・ベアトレを実施する機会を作ることができなかった。 ・自分の子供が何の療育を受けているのが理解していない保護者が多い。 ・時間割を理解していない、何曜日になにかあるのかわかっていない。	・実習への参加や、委員会に参加しベアトレを開催できる環境を作る。 ・何のための療育なのか、振り返りや発信を習慣化できるよう帰りの送迎時に具体的に伝える。 ・帰りの送迎の際にプログラムを表にしたものをバインダーに挟み見せながら説明する等。
2	みらいず内だけでなく、地域や障害のない子と接する機会が少ない。頑張っていることを発信する機会がない。	・みらいずから出て活動する機会がない。	・地域での支援ができるようコミュニケーションを取っていく。 ・美郷町でみらいずを発信する機会を作る。 ・美郷既存児童のスポコンへの参加。 ・成功事例発表会など地域や保護者にみらいず内での頑張りを共有する機会を作る。
3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有できていない	①ヒヤリハットの書式はないが、支援をしていて気になったことの共有以外に何が危険だったかを話す機会がない。 ヒヤリハットの意識を持つことで指導の目線が変わる。 ②ヒヤリハット作成は社会人1年目に自分も経験があるが「やってしまった」「ミスしてしまった」という意識があり自身のなさに繋がってしまう危険性もあるので配慮が必要。	①MTGで子供たち同士のトラブルや施設内での環境の危険な箇所について話し合う機会を作る。共有書式やPC内でフォルダを作成し共有する機会があってもよいのではないかと。 ②共有するのであれば事業所単位での発信にする。個人名をなるべく控えることなど… ミスではない、共有して子供たちやみらいずの為にという意識を持つ。 ③共有してくれた人に感謝の気持ちを伝えるようにすることで「良い取り組み」「書くことでみんなが助かる」という意識を作っていく。